

第533回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和4年10月12日（水）午前11：00より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 7名
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

委員長 林 新一郎

副委員長 井口 弥寿彦

委員 浅井 隆彦

委員 笹本 正治

委員 瀧川 浩

委員 武重 正史

委員 南澤 光弥

○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

委員 加藤 恵美子

○放送事業者側出席者名

外山 衆司 （代表取締役社長）

船木 正也 （常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当）

太田 耕司 （常務取締役 報道制作・企画事業担当）

西條 彰浩 （報道制作局長）

早川 英治 （編成業務局長）

浅輪 清 （編成業務局次長 兼 考査部長
兼 放送番組審議会事務局長）

北澤 輝久 （編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）

伊藤 晴彦 （報道制作局次長）

4. 議題

（1）番組審議

『 NBSフォーカス∞信州 涼感壮観 信州映え滝めぐり 』

令和4年8月26日（金）夜7時00分～7時57分放送

(2) 「長野放送 番組基準」の変更について（諮問）

(3) 視聴者対応報告（令和4年9月分）

番組種別報告（令和4年4月～9月分）

(4) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・信州には多くの滝があり、様々な形状とか滝の表情、映像美と流れる水の音も千差万別でとても面白い番組に仕上がっていた。
- ・滝の上部、先がどうなっているかというのを知りたくなり、その映像をドローンだったからしっかりと映し出すことができた。
- ・ドローンが上から下に降りていく映像が、滝の落下する水の流れと同化する気分になる映像だった。
- ・映像が綺麗で特にドローンや、水中カメラも駆使して、滝の裏側だとか様々なアングルからその魅力に迫ることが出来た。
- ・タイトル通り、涼感を感じさせる映像が満載で、涼し気に没入して楽しく見た。
- ・特に岩肌を叩いてザーザーと降り注ぐ水しぶきの音が非常に効果的で冷たさまで伝わってくるようだった。滝にたどり着くまでの山道や、沢を進んで行く映像も信州ならではの懐の深い自然を紹介していて夏の山国らしい番組だと思った。
- ・昆虫や川の魚、様々な山の風景のカットが効果的に使われていて滝の紹介そのものだけではなくて、信州の自然、山の自然、全般の魅力が伝わった。
- ・魚が虫を食べるシーンは、今回撮ったとすれば時間を掛けて集中して素晴らしい映像だと思った。

- ・それぞれの滝にきちんと名前も付いていて、それぞれの滝に親しんでいる人たちが少なからずいるという事実を今回この番組で実感させられた。
- ・数々の滝の美しい映像と爽やかな音響を基調として、案内人のコメントと多めのテロップを通して滝の特徴やデータ、滝の様々な楽しみ方をカテゴライズしながら初心者から滝の愛好者まで年齢も幅広く、分かりやすく伝えた。
- ・ナレーションを抑えて、テロップでいろんな情報を分類しながら示し、滝巡りの初心者にも参考になる情報が多かった。
- ・案内人の中嶋さん、坂崎さんが自らとおきの滝を現地で紹介するという番組のスタイルは良かった。
- ・秘境の滝まで足を運び、四季折々の表情をカメラに収めることを楽しんでいる中嶋さん。坂崎さんは滝の流れを細かく観察して、滝に感情移入しているような、そういう見方の違いが出ていたところが面白かった。
- ・滝の専門家というか愛好家というか、2人のコメントが奥深くて味わい深いことが印象に残り、それぞれ滝に込める思いを感じて、考えさせられるところもあった。
- ・2組による現地ルポを軸にして映え滝図鑑と題したコーナーや視聴者からの好きな滝の写真を加えていった構成は、メリハリを工夫した手法だと感じた。
- ・松山アナ、吉岡アナ共に見ている視聴者の目線というか、感動等を率直に伝えていたので好感が持てた。
- ・ナレーションの汾陽アナウンサーの声もきれいだったし、内容も良かった。
- ・滝のある場所を長野県の地図にプロットしたこと、アクセスのしやすさ、難易度の紹介があることによって視聴した方々が、近所の滝に明日にでも出かけてみようかなと思わせる仕掛けはできていた。
- ・滝を見る時には背後に保水力のある立派な森が必要、岩肌と対照的に緑というのを想起させてくれるということもコメントしていただき、感じさせてくれた。
- ・軽井沢の千住博美術館の説明と映像は、少し変化があって楽しく拝見できた。

- ・千住博美術館の話聞くことによって滝というのは普通の物と違う第六感みたいなものとか、宇宙みたいなものを再確認した。
- ・映像が非常に良いだけに、言葉数はいらなかった。専門家のコメントくらいに人の話はとどめ、テロップで流すと余計に映像の良さが際立ったのではないか。
- ・滝に至るまでの市街地、ふもとの様子から登山道、そして滝といったような風景の変化が丹念に紹介されたり、登っていく人たちの様子が映ったりすると、大変さみたいなものも伝わったり風景の変化を楽しめたりできたのではないか。
- ・花に関しては一切説明がない。知っている花もあるけれども知らない花もあるので、ちょっと説明を入れていただけたらありがたい。
- ・次々と滝が繰り出されるテンポの速さは若い世代の視聴者には合う気がするが、個人的にはもう少しじっくり見たいと感じた。映像美と水の音にゆったりとした癒しを求めたいので、世代によっては受け止め方が異なるかもしれない。
- ・「信州」の滝の楽しみでは、「信州」という言葉と「長野」という言葉で使い分けがされているのかされていないのか。例えば「信州」という時には意図があるのか知りたい。
- ・Instagram等で使われる「映（ば）え」が出てくることによって若者たちの迎合みみたいな感じがした。言葉を大事にする時にこの「映（ば）え」でなければいけないのか。
- ・なぜ「滝ガール」という言い方をしなければいけないかよくわからない。「城ガール」とか言うように、女性だけをことさらに言うこと自体が今の社会の中では逆にマイナスになってこないかと考えた。
- ・水系を入れていただければ分かりやすくなったのではないか。
- ・中嶋重彦さん、坂崎絢子さんのそれぞれ滝に対する確固たる考えをお持ちの方が対談させたら面白いのではないかなと思った。
- ・この番組の放映のタイミングは、8月の盆前だとコロナの第7波で外に出る機会が

限られているところでもアウトドアの所には行きやすかったので、その辺の工夫は必要だったと感じた。

- ・ 放映のタイミングが夏の終わりだったので、もう少し早いタイミングだと夏休みにどこへ行くかという方に役立ち、観光的にも効果的ではなかったかと感じた。
- ・ 滝巡りなり、滝を見に行く時の注意点みたいなものをまとめて出し、安全安心の滝巡りみたいなコーナーがあっても良かった。
- ・ 春夏秋冬のもの、この続編が制作されることを期待する。
- ・ 紅葉の時期が良いとか、どのくらいの歩く時間が必要だとか、どんな靴を履いていった方がいいとか、そういうアドバイスもタイミングよくやってほしい。

(2) 「長野放送 番組基準」の変更について

事務局より「長野放送 番組基準」の一部変更について諮問した。

(3) 視聴者対応報告

番組種別報告

資料に基づき、令和4年9月分の視聴者対応について、及び令和4年4月から9月分の番組種別について編成局より報告を行った。

(4) その他

配布資料

- ・ 第532回番組審議会（令和4年9月）議事録
- ・ 加藤委員コメント原稿
- ・ 「長野放送 番組基準」の変更に関するご説明資料
- ・ 視聴者対応報告資料（令和4年9月分）
- ・ 番組種別資料（令和4年4月～9月分）

- ・第70回民間放送全国大会 配信のご案内
- ・モニターレポート
- ・BPO報告（NO.243）
- ・タイムテーブル（令和4年10月～12月分）
- ・第534回番組審議会資料及びDVD

以上